

《新会員のひと言》

はじめまして、前田理絵です



このたび協会のお仲間に入れていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

私とポーランドとの出会いは高校生の頃。当時、海外文通が流行っており、友人がペンパルクラブに手紙を出したところ「2通来たから1通あげるよ」ともらったのがポーランド人の手紙だったのです。片言の英語で文通し、大学2年の夏、初めての海外旅行でポーランドを訪ねました。彼も家族もとても温かい人たちで、美味しい家庭料理をはじめ、まさに至れり尽くせりのおもてなしでした。

すっかりポーランドに魅せられた私はポーランド語の勉強を始め、旅行やサマースクールに行くようになり、大学を卒業後クラブに語学留学しました。

3年後帰国、幸い駐日ポーランド大使館の商務参事官室に勤めることができました。カルチャーセンターで教える機会にも恵まれ、2人の子供の出生・育児のため大使館を退職後も細々とポーランド語を続けることができました。

最近は通訳・翻訳やポーランド語講師のお話も来るようになり本当に有難い限りです。特に教える仕事は大変楽しくやがいを感じています。「難しい」といわれるポーランド語ですが、文法を説明して理解していただき、使えるようになっていく生徒さん達の笑顔を見ると私自身も喜びと力が湧いてきます。語形変化を覚えないと使えないポーランド語ですが、覚えてしまえば楽になります。皆さん、諦めないでポーランド語を学びましょう！

(まえだ りえ)

園部真幸と申します



大学を出てから江別市で遺跡の発掘調査に従事していました。郷土資料館やセラミックアートセンターの学芸員などを経て3年前に退職、現在は非常勤職員として郷土資料館に勤務しています。

ポーランドに興味を持ったきっかけは映画です。30歳を過ぎたころ、札幌のイメージ・ガレリオ(現シアター・キノ)で『灰とダイヤモンド』(A・ワイド監督)と『夜行列車』(J・カヴァレロヴィッチ監督)を見たのが最初です。その後ホームビデオで両作品を擦り切れるほど見ましたが、『灰とダイヤモンド』は今でも青春映画の最高傑作だと思っています。

1980年に始まった「連帯」の運動にはずっと関心を寄せていました。ですから政労合意が結ばれ、新しい時代の到来が期待された矢先に戒厳令が布告され、警官がデモ隊を殴打するシーンをニュース映像で見た時はとても残念な気持ちになりました。

戒厳令を布いたのは当時の統一労働者党第一書記ヤルゼルスキですが、民主化後大統領になったワレサが、病床のヤルゼルスキを見舞っている写真を伊東孝之さんが POLE 第83号に紹介しています(本会 HP 参照)。まさにポーランドだからありえたような、「憎悪より和解」を象徴するお話です。

協会には、今後もポーランドの歴史や文化をどんどん紹介してほしいですね。今、暗い話や難しい話が敬遠される風潮にありますが、ポーランドの人々が背負ってきた重い歴史の中にこそ、日本人が学ばなければならないことが多くあると思います。

(そのべ まさき)



念願の日本・ポーランド直行便が就航

2016年1月14日ワルシャワ・シヨパン空港より成田国際空港に、待望のLOT(ロット)ポーランド航空の初便が到着しました。今までポーランドに行くにはモスクワ、ヘルシンキ、フランクフルト、パリなど経由でしたが、LOTの就航によって、日本とポーランド間のみならず、ヨーロッパへのゲートウェイが変わり、乗り継ぎの利便性が格段によくなると期待されます。

いまはまだ週3便(日・水・金曜日)ですが、いずれ毎日運航することでしょう。この就航で日本とポーランドの交流が一段と活発化されることを期待します。

日本とポーランド国交百周年(2019)に、LOTでポーランドへ行きたいですね。(尾形芳秀)

